

# 第3回 名勝木曾川の堤防整備に関する検討委員会 説明資料

---

# 1. 前回(第2回)の議事要旨

# 前回(第2回)の議事要旨

## 第2回 名勝木曾川の堤防整備に関する検討委員会 議事要旨

現状と課題の補足、堤防・護岸整備の方向性について、意見交換と質疑応答を行った。

### 現状と課題の補足

#### 〈質疑応答〉

- 堤防整備によって川幅が狭まり、洪水時の河川水位が上昇するのではないかと  
→ 洪水時の河川水位は、堤防整備前後の比較では上昇する方向に働くと考えられるが、計画高水位以下であることに変わりはない。
- 堤防整備によって、露岩部への土砂堆積が生じやすくなりはないか。  
→ 植生の自然繁茂に伴い緩流速箇所が生じることによる土砂堆積の発生は予測が困難であるが、このような事象を除いては、堤防整備区間は川幅が現状よりも狭まることから現状よりも流速が大きくなるため、土砂堆積量は減る方向になると考えている。
- 今回の対象区間の上流側で、堤防整備の予定はあるか。  
→ 今回対象区間の上流側の堤防整備は、説明資料p21の堤防下流端に当たる坂祝町勝山において、支川(迫間川)合流部の処理を予定している。
- 堤防高は、計画の洪水規模が見直しで大きくなった場合、相応に変更されるのか。  
→ 堤防高は、社会との約束事である計画高水位に基づき設定しており、計画の洪水規模が大きくなった場合でも基本的には変更しない。
- 名勝木曾川を構成するチャートの渓谷や林木、瀬や趣のある岩礁等がなくなった場合、名勝指定の取消はあり得るのか。  
→ 名勝の構成要素が消滅すれば、指定の解除はあり得る。直近の事例としては、東京オリンピックのヨット競技会場建設に伴う江ノ島の1960(S35)年の解除が挙げられる。
- 説明資料p21の坂祝町の区間では、樹木の繁茂が認められるが、伐開の対応はされているのか。  
→ 当該区間も樹木伐開の対象ではあるが、樹木繁茂の現状は流下能力上支障を及ぼすほどではなく、河積阻害が著しい他の個所の伐開を優先的に実施している。

### 堤防・護岸整備の方向性

#### 〈意見交換〉

- 堤防形状の基本的な方向性としては、露岩の消滅範囲を最も小さくできる例3(川表・川裏ともに土留擁壁を設置)が望ましい。

- 堤防形状については、その近さや高さを視覚的に示し、近隣居住者の意見等を反映することも求められる。
- 堤防と住居とがあまりに近接する場合は、堤敷幅を狭めることも検討してはどうか。
- 今後の検討に当たっては、堤内居住地と河畔との安全な往来、水神碑お詣りの所要スペースも考慮した移設場所、渡し跡への車両の進入方法等も具体化していく必要がある。
- 延長約400mものコンクリート壁面が現れることは、景観上好ましくなく、修景の工夫が求められる。
- 修景の方法として、植生に期待する方向で検討できないか。今回の対象区間は、説明資料p8左写真のとおり土砂が堆積しやすい場所であり、植物の自生が期待できると考えられる。
- 植栽帯を設ける余地があれば、コンクリート壁面を樹木で覆い隠すことも考えられるのではないかと。
- 植生の繁茂は、害虫の発生による近隣居住者の環境悪化が懸念される。
- 水神碑の後背地には説明資料p22のとおり玉石積があるので、それに準じて修景することも考えられる。
- コンクリート擁壁の前面に、修景のための玉石積を設けることが最良と考えられる。
- 玉石積による修景は、それを適切に維持し積極的に見せていくということであれば理解できるが、現実的には費用の面で厳しいのではないかと。下流側の区間では護岸を大型コンクリートブロック積で整備した実績もある。
- コンクリートの明度は、経年により下がっていく。
- コンクリート擁壁に予厚を設け、斫りによる修景ができないか。
- 名勝木曾川に相応しい景観とするという方向性は良い。修景と事業費の縮減とは相反関係があると言えるので、留意いただきたい。
- 費用が多少高額となっても、先進的な事例となるよう取り組んでほしい。
- 修景の方法は、全区間均一ではなく部分的に変えていくことも考えられる。

#### 〈質疑応答〉

- 玉石材として木曾川の現地材を充てることは可能か。  
→ 木曾川の河床では玉石が不足しており、現地材の使用は困難と考えられる。

### 今後の進め方

次回会議では、今回説明資料の例3(川表・川裏ともに土留擁壁を設置)を対象に、階段の位置・形状も具体化の上、修景の複数案について完成予想図を示し意見交換を行う。

## **2. 関係団体等への説明**

# 前回(第2回)委員会結果の関係団体等への説明

- 前回(第2回)委員会の説明資料と議事要旨について、木曾川景観協議会の構成団体、地元自治会等への説明を行った。

## 関係団体等への説明の実施概況

| 区分 | 団体等名称          | 説明日・形式：人数                         |
|----|----------------|-----------------------------------|
| A  | 各務原商工会議所       | 11/24(金)面談：1名                     |
|    | 犬山商工会議所        | 11/22(水)面談：1名                     |
|    | 各務原市観光協会       | 11/24(金)面談：2名                     |
|    | 犬山市観光協会        | 11/27(月)面談：2名                     |
|    | 木曾川長良川下流漁業協同組合 | 11/24(金)資料送付                      |
|    | 木曾川観光(株)       | 11/22(水)面談：1名                     |
| B  | 各務原市宝積寺自治会     | 11/21(火)説明会：14名                   |
|    | ミラマチ栗栖         | 01/15(月)役員会：3名<br>01/17(水)定例会：10名 |

注) 区分 A：木曾川景観協議会構成団体、B：地元自治会等

## 意見等

### A 木曾川景観協議会関係団体

- コンクリート擁壁(護岸)表面の修景は、植生・石積のいずれにせよ、自然のもので覆われていけばよいのではないか
- コンクリート擁壁(護岸)表面の修景は、玉石がよいと思われるが、予算上難しいのであれば、その旨をはっきりと示されてはどうか
- 堤防・護岸の整備箇所は土砂が溜まりやすく、植生が期待できるのではないか
- 今回の資料では、景観のイメージが分からない
- 渡し跡は、地区の行事の他、消防の訓練でも利用されており、車両の往来と催事スペースの確保が必要となる

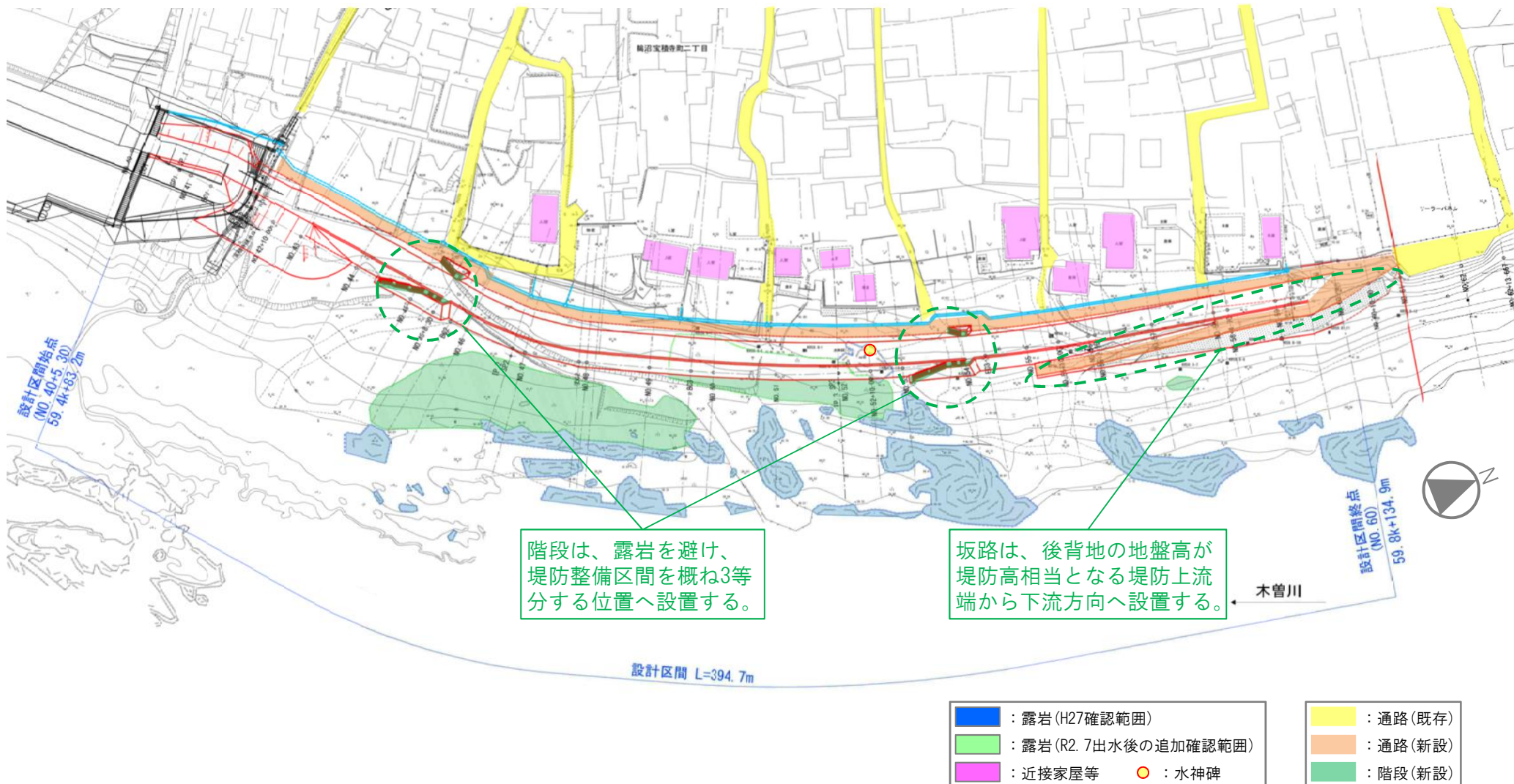
- 水神や渡しについては、対岸(犬山市側)のことも調べ、歴史的な価値が共有されるよう、委員会として取りまとめてもらいたい
- B 地元自治会等**
  - 今回の資料で示された堤防の位置は、家屋側に寄り過ぎている。堤防の形状は例3でも構わないが、川側の位置をせめて例2とし、圧迫感を緩和してほしいし、家屋敷地の改変が生じないようにしてもらいたい
  - 今回の資料では、家屋側からの堤防整備後のイメージが分からない
  - 堤防家屋側の通路上流端は、行き止まりとせず、街路へ接続してもらいたい
  - 渡し跡への通路は、軽トラックの往来機能を確保してほしい。渡し跡では4月のお詣りや正月の左義長を行っている
  - 渡し跡への通路は、消防車の往来機能を確保してほしい。渡し跡付近では消防の放水訓練を定期的実施している。消防水利との接続も確保してほしい
  - 宝積寺地区の家庭排水は、合併浄化槽から木曾川へ直接的に行っており、堤防整備後にも機能が低下しないようにしてもらいたい
  - 宝積寺地区の雨水排水は、路地の側溝で木曾川へ直接的に行っており、堤防整備後にも機能が低下しないようにしてもらいたい
  - 整備区間下流端の排水路が堤防整備に伴い暗渠となるとのことだが、木曾川の水位が高くても内水の排除ができるようにしてもらいたい
  - S58(1983).9洪水では、栗栖地区(犬山市)の県道やその背後の住家床下が浸水した。栗栖地区の堤防整備も進めてもらいたい

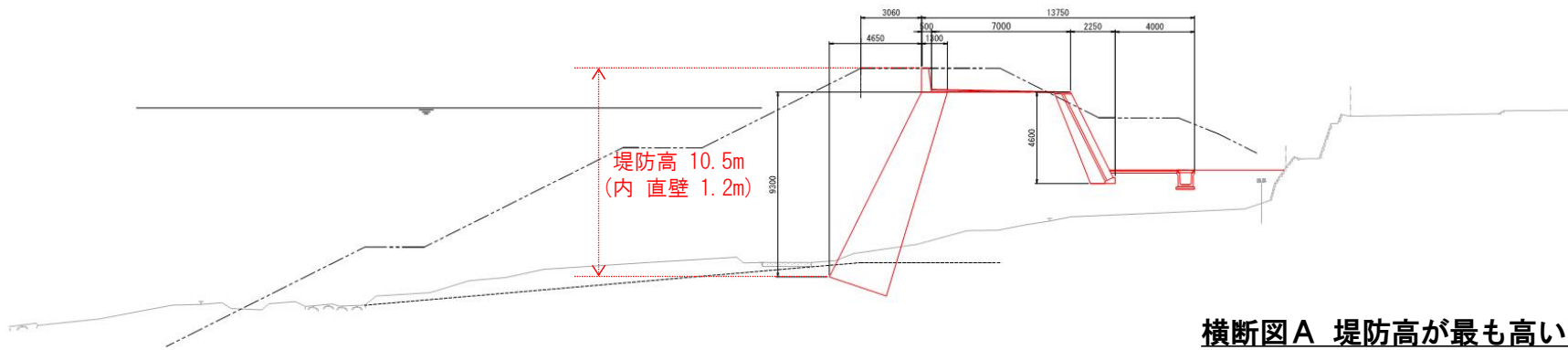
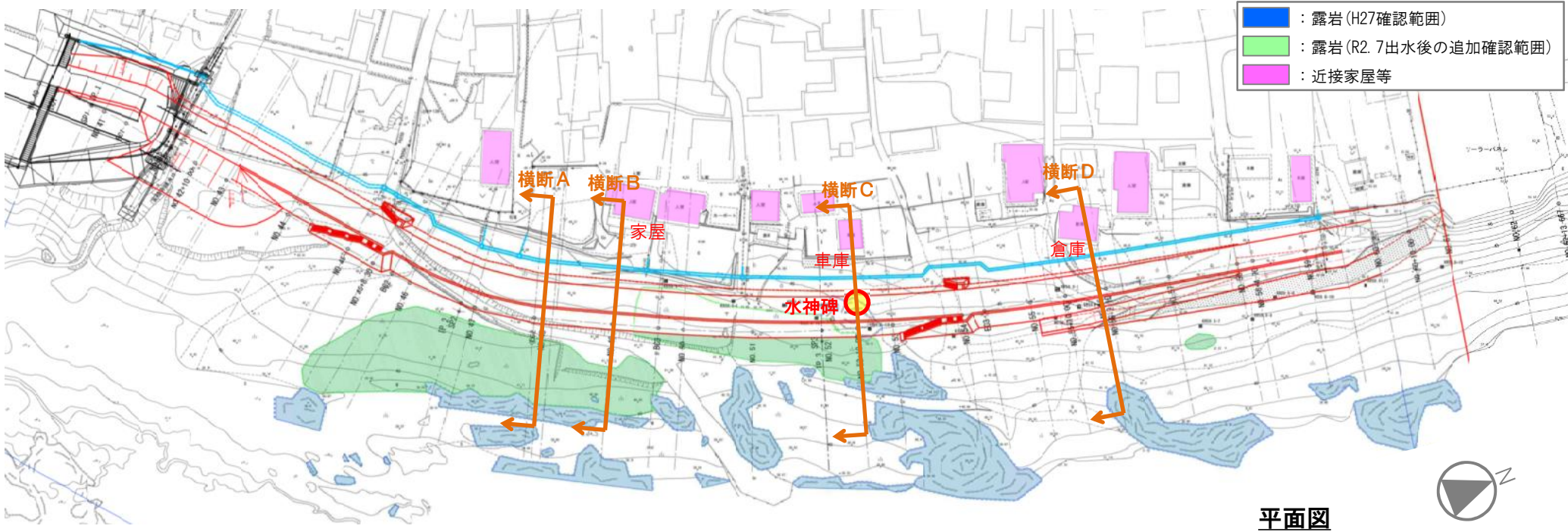
注) 下線部：前回(第2回)議事で出された意見と関わる内容

# 3. 堤防・護岸の修景

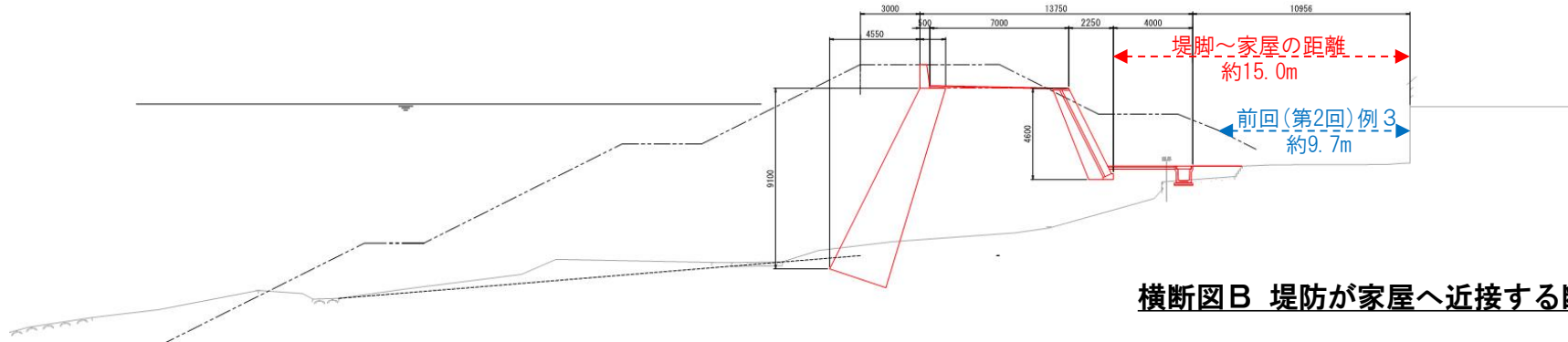
# 堤防の形状・位置の具体化

- 前回(第2回)の例3(川表・川裏ともに土留擁壁を設置、天端部へは直壁を設置)をもとに通路・階段等を具体化した。
- なお、堤防の位置は、地元の要望に基づき河川方向へ少し移動した。

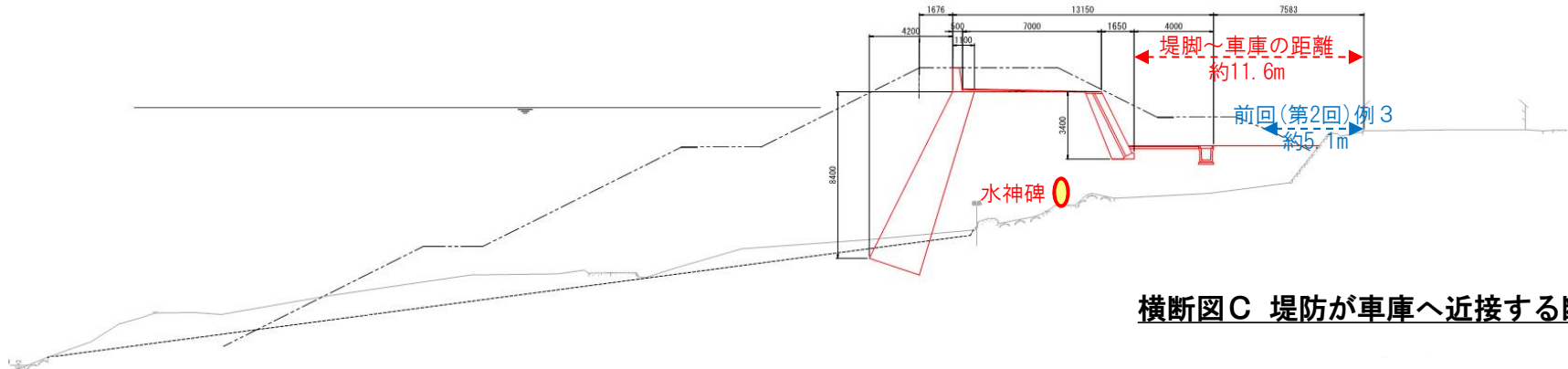




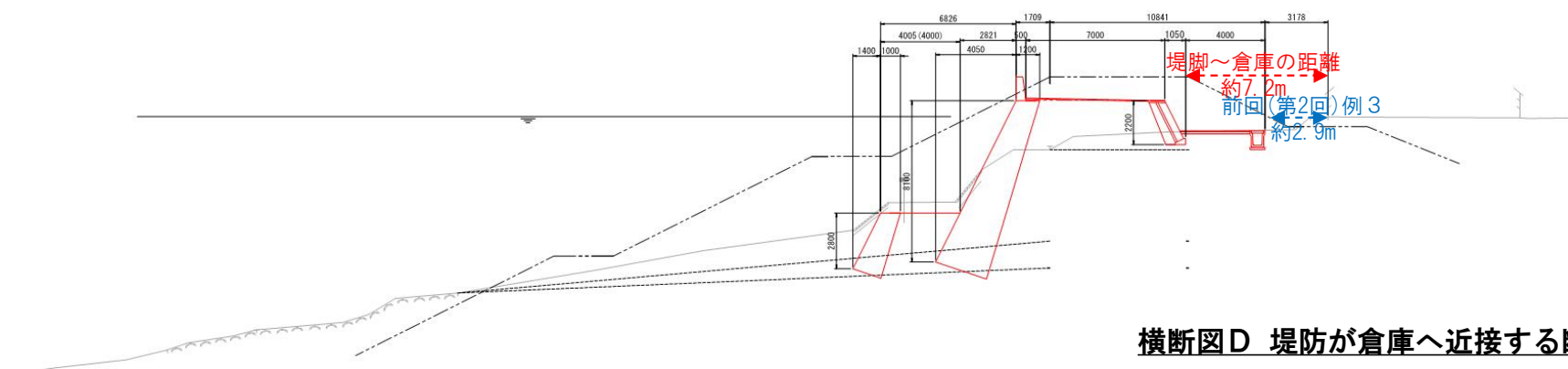




横断図B 堤防が家屋へ近接する断面



横断図C 堤防が車庫へ近接する断面



横断図D 堤防が倉庫へ近接する断面

# 堤防と露岩との位置関係

- 露岩の残存割合は、堤防位置の移動に伴い約89%となった。

■ : 露岩 (H27確認範囲)  
■ : 露岩 (R2. 7出水後の追加確認範囲)  
■ : 近接家屋等      ○ : 水神碑

現状



露岩面積 : 6,037m<sup>2</sup> (3,192m<sup>2</sup> + 2,845m<sup>2</sup>)

今回 川表に擁壁を設置



露岩面積 : 5,376m<sup>2</sup> (3,073m<sup>2</sup> + 2,303m<sup>2</sup>)  
 残存割合 : 89.1% (96.3% · 80.9%)

【参考】 前回(第2回)の例2 川表に土留擁壁を設置



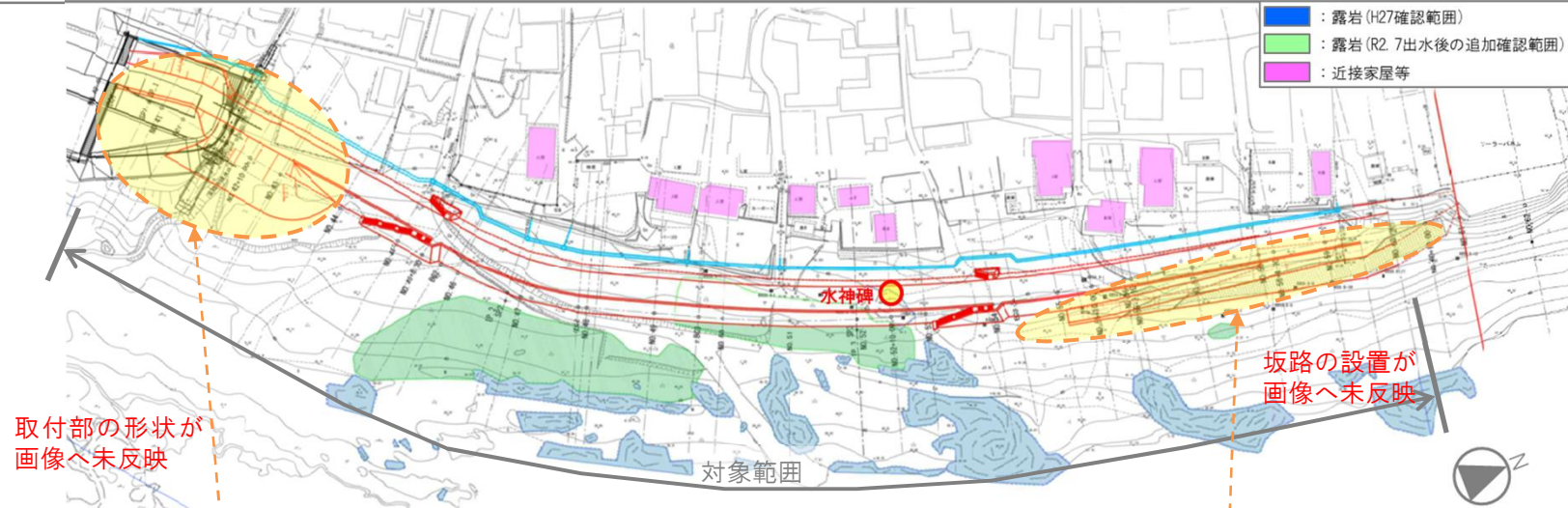
露岩面積 : 5,129m<sup>2</sup> (3,068m<sup>2</sup> + 2,061m<sup>2</sup>)  
 残存割合 : 85.0% (96.1% · 72.4%)

【参考】 前回(第2回)の例3 川表・川裏ともに土留擁壁を設置



露岩面積 : 5,822m<sup>2</sup> (3,160m<sup>2</sup> + 2,662m<sup>2</sup>)  
 残存割合 : 96.4% (99.0% · 93.6%)

- 修景(案)の作成にあたり、Google Earth をプラットフォームとする3Dイメージ画像を作成した。
- なお、イメージ画像では前ページまでの設計内容のうち、上流端の坂路や下流端の取付形状等を未反映としている。



取付部の形状が  
画像へ未反映

坂路の設置が  
画像へ未反映

対象範囲



対象範囲

- 川表の修景(案)は、階段と坂路を特徴的な部分として捉え、その外壁を玉石積により被覆することとした。
- それ以外の範囲については、コンクリート表面の洗い出し処理により、骨材を露出させ光沢を抑えることとした。
- なお、イメージ画像の色相・明度は、次ページの写真(玉石積と洗い出しの一般的な事例)を参考に設定した。



## コンクリート表面の洗い出し処理の例

## 玉石積の例



茶色系の骨材の場合

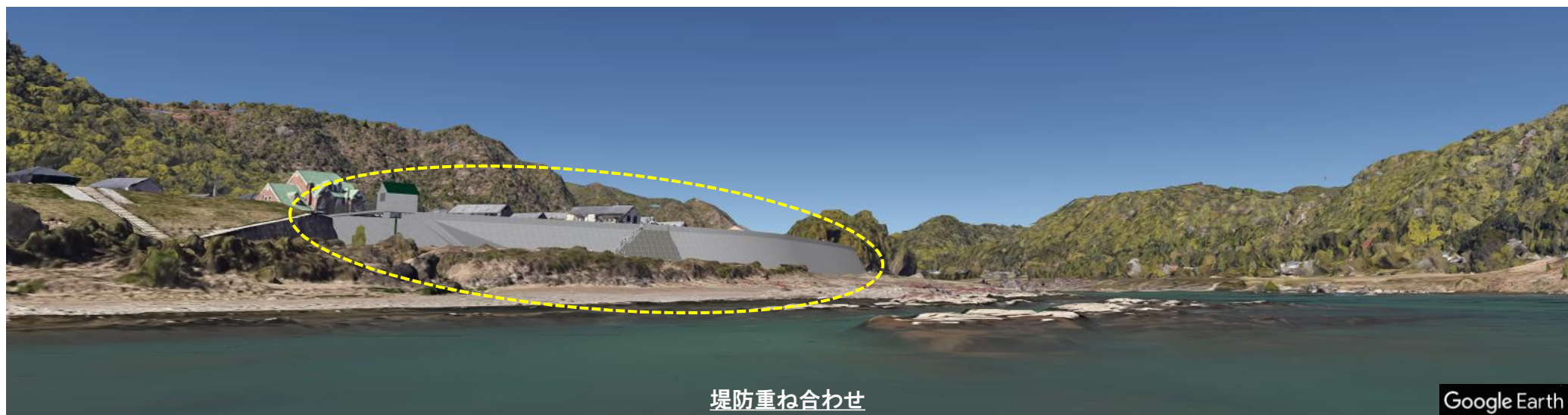
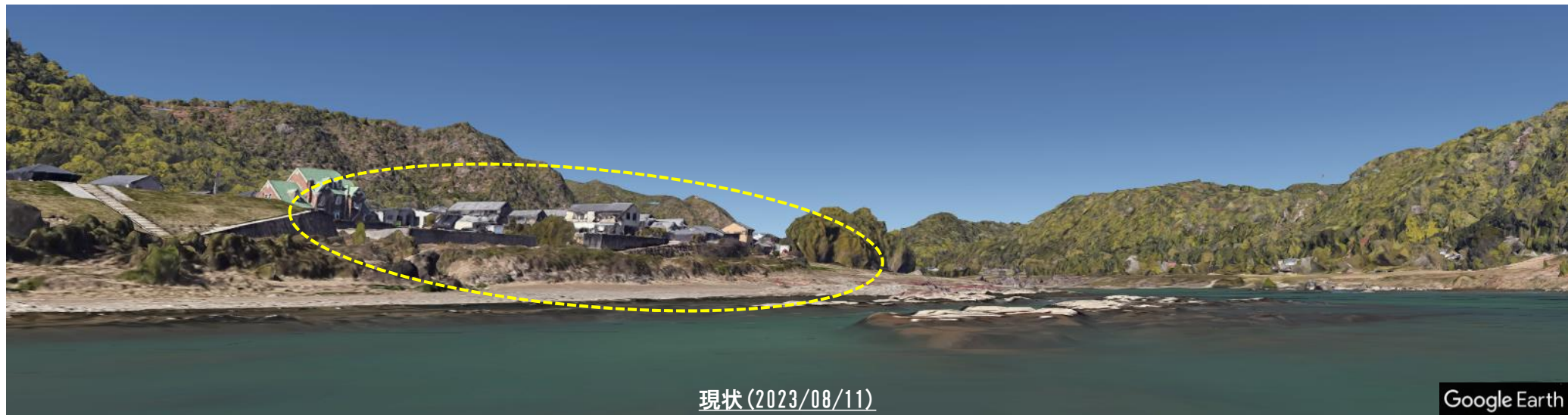
(同左)  
細粒分が多めの場合

黒色系の骨材の場合



イメージ画像(階段A付近)



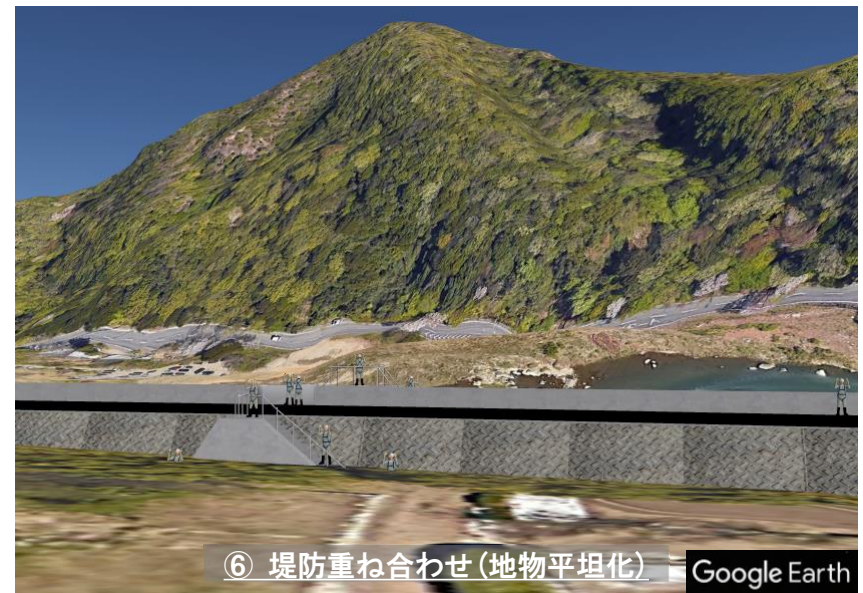
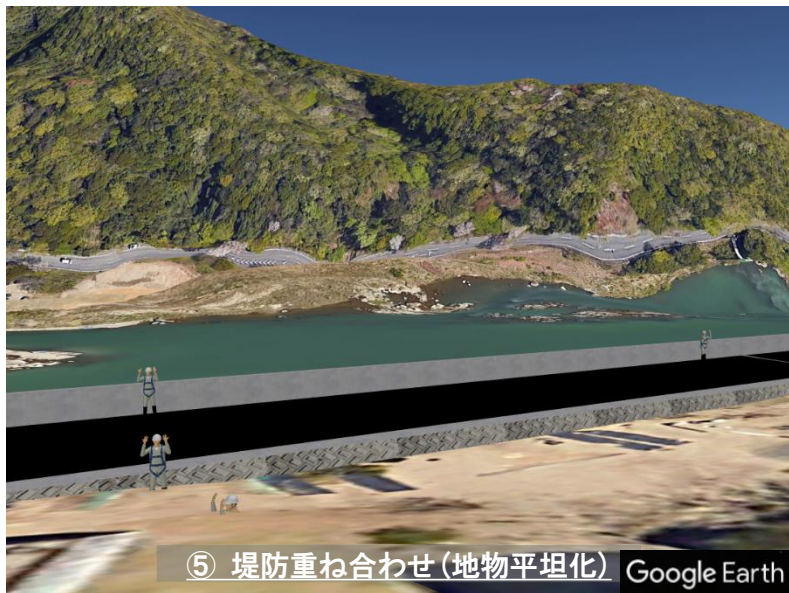














## 5. 今後の進め方

- 当委員会の会議は、今後2回の開催を予定する。
- 今回の会議結果に関する関係団体等への説明・意見等聴取は3月中を目途に行い、その結果を次回委員会で紹介する。
- 次回会議では、今回の会議結果等を踏まえた堤防・護岸の設計(案)と施工方法・工程(案)について、意見交換を行う。

## 今後の進め方

### 名勝木曾川の堤防整備に関する検討委員会

### 個別説明・意見等聴取

| 会議          | 開催時期     | 内容  | 情報共有 | 関係団体等   |
|-------------|----------|---|------|---|
| 第1回         | R5/08/02 | <ul style="list-style-type: none"> <li>現状と課題</li> <li>今後の進め方</li> </ul>         | →    | 各務原商工会議所<br>犬山商工会議所<br>各務原市観光協会<br>犬山市観光協会<br>木曾川長良川下流漁業協同組合<br>木曾川観光(株)<br>地元自治会 等 |
| 第2回         | R5/11/10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>現状と課題の補足</li> <li>堤防・護岸整備の考え方</li> </ul> | ←    |   |
| 第3回<br>(今回) | R6/03/07 | 堤防・護岸の修景  | ←    |   |
| 第4回         | 来年度予定    | <ul style="list-style-type: none"> <li>設計(案)</li> <li>施工方法・工程(案)</li> </ul>     | →    |   |
| 第5回         | (同上)     | まとめ   | ←    |   |
|             |          |   | →    |   |

木曾川景観協議会の構成機関